

2016年度上半期学生海外発表奨励金 成果報告書

氏名：今村公裕（いまむら まさひろ）

所属：九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻

会議名称：AGU's 49th Annual Fall Meeting

開催期間：2016年12月12日～2016年12月16日

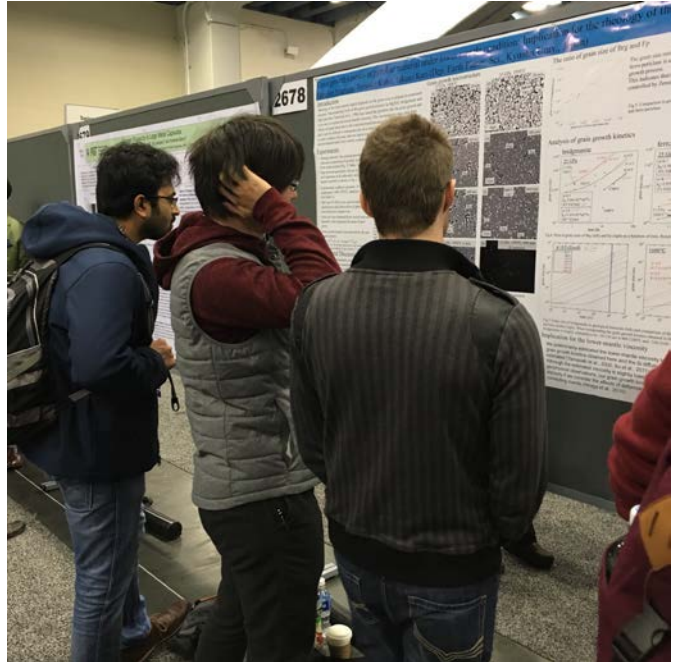
開催場所：サンフランシスコ、アメリカ

[出席目的]

AGU's 49th Annual Fall Meeting に参加し自らの研究成果を発表することでさらに研究を発展させること、多くの研究を見聞きすることで研究の視野を広げることがを目的とした。

[成果の概要]

この度学生海外発表奨励金をいただき12/12-12/16に開かれたAGU's 49th Annual Fall Meetingに参加することができました。参加者は約25,000人で1700以上のセッション、20000を超える口頭発表が行われておりました。私は主に鉱物物理学やスラブに関する講演やポスターを聴講しました。学会会場では休憩時間にコー



ヒー、夕方からはビールが振舞われ非常に朗らかな雰囲気でした。学会会場のあるサンフランシスコは日本と比べてもそこまで寒くなく、また日本と違いそれほど乾燥していなかったため非常に過ごしやすい場所でした。私はユニオンスクエア近くのホテルに泊まることができ、発表会場までの街並みが美しくそれだけで楽しむことができました。

今回私は最終日の12月17日にExperimental measurements and theoretical constraints on transport properties of GeomaterialsセッションでGrain growth kinetics in pyrolyte material under lower mantle condition: Implications for the rheology of the lower mantleというタイトルのポスターを発表しました。この発表は下部マントル条件(圧力25 GPa、温度1600-1950°C)でのパイロライト物質の粒成長実験を行ったもので、先行研究よりも早い粒成長速度を示し、得られた粒成長速度式と動的粒成長の効果から下部マントルの粘性率を説明できることを示唆したものでした。最終日の発表でしたが多くの研究者の方に聞きに来ていただけ、主に実験の方法や微細組織についての質問をいただき、拙い英語ながらも議論することができました。写真はその時の写真で、真ん中の人物が議論中の私を映してもらったものです。これらの議論や様々な先端的な研究を聴講したことは自らの研究の意義の再確認やこれからの研究について考える上で意義のあるものでした。

また今回の国際学会が私にとって初めてのものであり、英語による会話・議論の難しさ、なんとか研究内容を理解していただいたときの嬉しさを身に染みて理解することができ、これからの研究生活にとって良い励みになりました。最後になりますが、この度は日本高圧力学会の学生海外発表奨励金を援助していただき、このような得難い経験をさせていただいたことを心より感謝いたします。